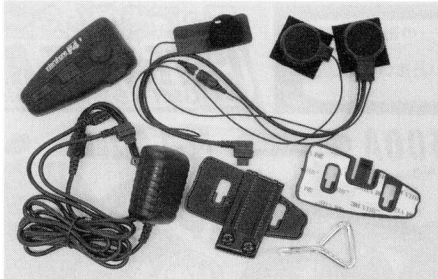


# Editor's VOICE

BIG MACHINE

充電式本体（約40g）にステータス、マイク&スピーカー、ACアダプターが付属。  
●問い合わせ：トーヨー産業 ☎03-6303-0030 <http://www.tysltd.com>



こちらがユニバーサル（ジェット用）のマイク。スピーカーの収まりもいい。

「インターコムは便利。一度使うと手放せない」と聞いてはいましたが、僕がバイクに乗るときは基本的にソロ。たまに数台で出掛けることもありですが、休憩のときや宿で話せば十分だと思っていました。ただし、長期連載中のCB1300SFに装着しているギャザズM・GPSナビからBluetoothで音声案内と音楽を飛ばしたいと思っていたのは事実。有線スピーカーはわずらわしくていけません（笑）。そこで、10年以上にわたって用品テストを担当してきた川越さんに聞いてみました。「Bluetooth対応インターコムがほしいんだけど、僕が使ったのなら、どれ？」「僕が……っということは、飛ばしても大丈夫なやつっというですよ（笑）」「そうそう。それに音楽を聞きたいんだ。CBのときはギャザズMから、CB以外のときはBluetooth対応携帯電話のミュージックプレーヤーからね」

「だったら、もうイタリアのセララーラインの『インターフォンステレオF4』しかないですよ。機能重視ならコレで決まり！」川越さんが推す理由は以下の通りだ。①DSP処理（デジタル信号処理）で風切り

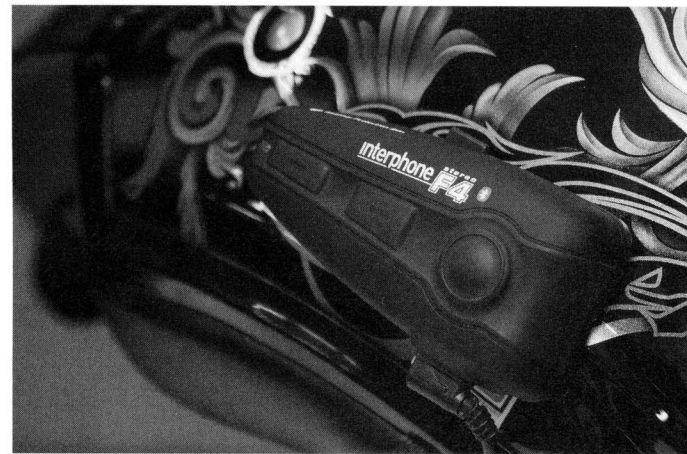
音がカットされるために音質が優れている、②約10時間も連続通話できる（待ち受けは最大700時間）、③速度に応じて自動的に音量を増減してくれるオートマッチング・ゲイン・コントロール機能が付いている、④IP67規格適合の防水性能を持っている（雨天でも心配ない）、⑤見通しのいいところなら最大通話可能距離が500mに達する。さっそく価格を調べてみると1個なら3万2800円、タンデム対応の「ツインパック」なら6万2800円。どうせ購入するなら……と、フルフェイス用のツインパックを選び、オプションでジェットヘルメット用のマイクを2個追加しました。友人ともどもフルフェイスとジェットを使い分けているので、あらゆる組み合わせに対応できるようにしたんです。

ヘルメットに装着するためのステータスはクリップタイプと両面テープタイプが同梱されていますが、僕は被り心地に変化のない後者を選択。スピーカーは薄型で、最新ヘルメットならすんなり収まります。どうやら最近ではスピーカー装着を考慮した内装になっているようです。配線の取りまわしは美しく見えるようにあれこれ工夫して完成。うーん、美しい仕上がりです（笑）。ちなみに本体はワンタッチで着脱可能。メインボタンで殆どの操作をカバーできま

すから、使い勝手も上々です。

本格的に活用したのは柏秀樹さんの新作DVDロケでした。実は柏さんもインターフォンステレオF4の愛用者！ふたりで4日間にわたって使いまくったら……これもう、楽しいのなんのって。ダジャレを言い合ったり、ライトクのアドバイスを受けたら、「夕焼けがきれいですね」なんて感動を共有したり。ソロで走っていたときには想像もつかなかった豊かな時間を過ごせました。以来、スタッフや友人にインターコム体験を押し付け（笑）、この楽しさを広くアピールしているところです。

そうそう、肝心の音質には十分に満足しています。高速道路で速いクルマの流れに乗っても大丈夫。それ以上だとインターコムによる空気抵抗の増加を感じますが、風切り音などは発生しません。ロングツーリングではソロでもインターフォンを2個持っていて、電池が尽きたら（といっても10時間も持ちますが）付け替えます。もう数千km使いましたが、トラブルフリー。すっかり手放せなくなりましたね。



SHOEI・J-FORCEⅢに両面テープタイプの取り付けステーを使って装着したところ。このヘルメットは耳部分の形状が優れているため、φ32mmスピーカーをきれいに収納できる。

## 「こんな楽しさがあったとは」

編集長 梶 浩之